近江八幡　町の魅力

以身伝しんぶん

十月二日 八幡堀一斉清掃

観光の皆さまへの「おもてなし」は掃除から始まる

10月2日、秋晴れの汗ばむくらいの日差しの中、八幡堀一斉清掃が白雲橋を中心とする一帯にて行われました。近江八幡観光物産協会をはじめ、「八幡堀を守る会」や商店の方々、一般のボランティアを含む総勢108名が参加。枝切りやお堀縁の生い茂った草刈り、水中の藻やゴミ攫いなど、協力し合いながら取り組み、見違えるほどきれいさっぱりとした八幡堀となりました。記者も参加させていただいたのですが、台風の影響もありつ足元のぬかるみや泥ハネがひどく、なかなか体力と根気の要る作業です。しかし、「八幡堀を守る会」や周辺の住民の皆さんは、月1～2回程度、遊歩道の石畳の草引きやゴミ拾いなど定期的に行なっているとのこと。お越しいただく観光の皆さまにとって、美しい八幡堀と町並みの思い出をお土産に持ち帰っていただけるために…です。ようこそ近江八幡へ！「おもてなし」の初心を忘れずに、あたたかいふれあいの心で、四季折々に皆さまのお越しをお待ちしていらっしゃいますよ。

（記者　冬木）

八幡堀は近江八幡市の顔

四季折々にさまざまな美しい風情があふれる八幡堀。去る10月2日、近江八幡観光物産協会を主催として、「八幡堀を守る会」、周辺住民のボランティアの方々による一斉清掃が行われました。

「堀は埋めた瞬間から後悔が始まる」を合言葉に、八幡堀を守る会をはじめ、地域住民の方々のたゆまぬ保存修景活動により、今なお続く八幡堀があるのです。

映画撮影や絵画・写真を楽しむ人々、さらには田舟に花嫁が乗る結婚式まで。

NO-MA2階では、八幡堀の特設コーナーが設けられています。ここでひと息休憩、ゆったり座って400年の歴史へ誘う「近江八幡の顔、八幡堀」を知ることができます。

1匹で200l/日もの水を浄化する、八幡堀に投入したイケチョウ貝。それから採れる琵琶湖の美しい淡水真珠も、ぜひご覧になってください。

（記者　冬木）

八幡堀を守る会さんとの協力で実現したNO-MA２階での資料展

ヘドロから復活 堀の歴史

八幡堀は以“身”伝心からだから、はじまった？

「ヘドロと悪臭の八幡堀」「始まった堀の埋め立て工事を阻止」「ボランティアは褒められたら終わり」「活動は助成金より自己資金！」

NO-MAの2階に設けられている八幡堀保全活動の30年を紹介するコーナーを訪れた「八幡堀を守る会」会長、苗村善正さんの口から名言が次々と。

すでに来館した方の中には、このコーナーが展覧会の内容とどのように関連するのかわらないと感じた方もいたようだ。実は筆者もその一人だった。しかし、お話を聞いて、今日の美しい八幡堀は「体（行動）が人の心を動かす」こと、はまさに「以“身”伝心　からだから、はじめてみる」ことで出来上がったということを知ることができた。筆者が聞いたお話全てをここに書ききることはできない。多くの方がNO-MAへお越しになり、そんな八幡堀とその作者さん方に出会われることを願っている。

（記者　相馬）

イケチョウ貝の実物。展示中は手で触ることができた。

八幡堀まつり 幻想的な灯り

10月13日（土）、14日（日）18時～21時、八幡堀周辺で八幡堀まつりが開催されLEDやローソクの灯り（約3500個）が堀や町並みを照らします。堀周辺ではコンサートもあり多くの人で賑わっていました。NO-MAや奥村家もローソクの灯りで幻想的に彩られ普段とは違った空間になっています。親子連れも多く、奥村家を訪れた子供達は鎌田紀子さんの人形を「なんか怖いね」と言いながら、あちこちに置かれてある人形を探すのを楽しんでいました。奥村家の中庭から座敷の方を見ると室内が暗がりに浮かび上がり、人形達の住む家の様です。これから日が短くなります。夕方に訪れるのも面白いかもしれません。

（記者　羽者家）

NO-MAをはじめ近隣の各書に明かりが灯り、幻想的な雰囲気に

ボーダレス・エリア記者クラブInstagramアカウントはこちら
https://www.instagram.com/borderless_area_kisya_club